

株式会社梶長

倉庫プラス住居の「農業ハウス」が人気。 プロデュースは鉄骨ひと筋の骨太企業。

屋根材や金具にまでこだわる

なよりも重量鉄骨で組まれた支柱や梁の構造体が「人が住まう建物」としては珍しい。H鋼の柱が重厚さを漂わせる1階はコンバインやトラクターなど農機具を収めるための倉庫。2階へあがってみると洒落な内装が施されたリビングや寝室が連なる「住まい」に一変する。これが最近、湖国のあちこちに増え始めている噂の「農業ハウス」だ。重量鉄骨構造の農業倉庫を累積2,000棟も販売してきた実績を誇る株式会社梶長が、長年にわたって蓄えた鉄骨建築の経験を注ぎ込んだ自信作だという。「屋根材には錆に強いアルミメッキ鋼板を採用。そのうえ屋根や外壁の取り付け金具はすべて50年もの耐錆性を持つステンレス製。これは重量鉄骨の家では他に例がなく、当社の施工がいかに良心的であるかを物語るもの。建物の耐久性は結局、お客さまの笑顔につながる」。良心的な施工を語るとき小梶金司社長のトーンがあがり、善いものをつくる誇りがみえざる。

農業倉庫の規格化で大ヒット

30年ほど前に重量鉄骨の農業倉庫を低コストで供給することに成功した。「ボルト締めなどの簡易な現場施工で済む組み立て式鉄骨を発案。住宅では一般的な規格化を農業倉庫にも応用できて、建築コストをぐんと安くできた」。梶長最初のヒット商品はこうし

て生まれ、湖国で長く売れ続けた。だが、草津市から坂田郡までを中心に2,000棟も売った現在では今後の新規需要の大幅な伸びは見込みにくい。代わって、ここ5年ほどで農業ハウスが売れっ子になった。「親世代との同居を渋る次世代。いったん都市部へ親離れした子世代が不況でUターンする傾向。それで親の敷地内で子の家族が別居したいというニーズの高まりに1階が倉庫、2階が住居の農業ハウスがフィットしたのだろう」。

高耐久性を執念で追求する

屋根に放熱構造をもたせた棟ルーフ換気や夏に涼しい屋根裏断熱構造など、「快適に住まう」機能性を高める独自の工夫を満載している。さらにはワイヤーメッシュを全面に入れて独立基礎や土間を補強したり、一体化工法の採用でコンクリート基礎の強度を高めるなど、農業ハウスには梶長がこれまで蓄えた経験、技術力が集大成された観がある。そのうえ、当初は製缶などの鉄工所からスタートして、国土交通省の認定工場を持つほど鉄骨加工に優れた梶長ならではの「強み」が建物の構造体に存分に活かされている。「国の厳しい基準に基

づいて、選りすぐりの鋼材だけを使い、酸化膜除去などの丁寧な処理をして正しい溶接を行う。この当然のことをしない鉄骨業者が残念ながら多いなか、当社の鉄骨建築は耐久性、耐震性などの信頼感で抜きん出ていると評判が高い」。良心的すぎるかなと自身の職人的気質に苦笑いする小梶社長。その心意気が年間50棟に迫る堅実な着工の伸びを裏づける。



Profile
 ■本社所在地/滋賀県愛知郡愛知川町愛知川615
 ■設立/1970年 ■代表取締役 小梶金司
 ■資本金/1,000万円 ■従業員/15名 ■事業内容/倉庫・工場等の設計・施工および販売、農業ハウスの設計・施工および販売



小梶社長からひと言、お客さまの笑顔を見るため、提案から施工のすべてに社員一人ひとりがアイデアと知恵を発揮するのがプロであると常に社内で呼びかける。「何事も進歩の発想」でより良い製品を生み出したい。

